

「主体的・対話的で深い学び」
授業力自己評価レーダーチャート作成ソフト の使い方

1 「『主体的・対話的で深い学び』授業力自己評価レーダーチャート作成ソフト」(jikohyouka～.xlsx) のアイコンをクリックして、作成ソフトを立ち上げてください。

2 ソフトが立ち上がったら、「第 1 回入力」と書かれたタブ（ウィンドウの最下段にある横並びのボタンの中の左端）を押してください。そうすると、自己評価シートの個別データ（結果）を入力する表が出てきます。ここに、アンケート実施月、そしてシートの項目ごとに校内の先生方一人一人がつけた点数を入力していきます。なお、校内の複数の先生方の入力が必要ない場合には、お一人の先生のみでの入力でも構いません。

番号の下「名前」の欄は、入れても入れなくてもレーダーチャートの描画には関係しません。必要に応じてお使いください。ただし、個人帳票を出力・印刷する場合には、名前を入れておく方が便利かもしれません。

3 データが入力されると、その都度、レーダーチャートが描画されていきます。その回の自己評価レーダーチャート（学校の平均値と 100 点満点で換算した学校の得点）は、「第○回グラフ」と書いてあるタブを押すと出てきます。

なお、4 点満点の平均点と 100 点満点（難しく言えば肯定率といいます）の換算方法ですが、平均点が 1 点ですと 100 点満点で 0 点となり、2 点で 33 点、3 点で 67 点、そして 4 点で 100 点となります。つまり、100 点満点を等間隔に 3 分割（1 点から 4 点の間は、間隔は 3 つであるから）するためです。逆にいえば、平均点 2.5 点で、100 点満点で 50 点となります。

4 このレーダーチャート作成ソフトでは、4 回実施分までの自己評価シートのデータ入力に対応しています。それ以上の回数を 1 年間に実施された場合には、新たにソフトを立ち上げて別名で保存し、第 1 回からお使いいただき、レーダーチャートの上の数字をお書き換えください。

5 各回の自己評価レーダーチャートは、その前後のレーダーチャートと重ね合わせて表示されるようになっています。このことによって、自己評価レーダーチャートの変化が教師にとらえやすくなります。

6 次に、このソフトでは、先生方一人一人に提供できる、個人帳票が簡単に作成できます。タブの「個人用（第〇回）」を押すと、それぞれの回のアンケートの結果に基づいた個人帳票が出てきます。

一人一人の帳票は、右上の『主体的・対話的で深い学び』授業力自己評価シートの結果」という表の中で、「氏名」の左にある「番」のところに、番号を入
れると出てきます。まとめて校内のすべての先生方の分の個人帳票が作成され
るわけではなく、番号を入力するたびに、該当する一人分だけの個人帳票が作
成されることをご理解くださいますようお願い申し上げます。

この個人帳票には、右上に、個人ごとの各回のアンケート結果、左下には学校の領域別の平均点、そして右下に個人毎の領域別の得点が配置されています。A3サイズの用紙に印刷すればきれいに出力されるようになっています。

7 可能であれば、自己評価レーダーチャートや自己評価アンケートの結果一覧表は、カラー印刷して配布すると、データの読み取りがしやすくなり効果的です。なお、エクセルのバージョンなどにより、印刷時に文字が若干ずれるなどのエラーが出る場合があります。そのような時には、ずれた文字の大きさやフォントを手動で調節してくださいますよう、お願い申し上げます。完全にすべてのソフトのバージョンに対応しておりませんことを、お詫び申し上げます。エクセルのバージョン 2007 以上でお使いくだされば幸いです。

8 なお、一人一人の先生方の授業の実施状況は、アンケートやレーダーチャート作成ソフトの使用とそれらの結果の返却だけでは、十分に改善されません。

大切なことは、アンケート結果に基づいて改善案を考えたり、改善の進捗を可視化したり、改善の取り組みを共有化して励まし合ったりするなど、授業改善に向けた多様な取り組みを行うことです。

※ 上記8のような授業改善に向けた多様なアイデアを収集し、広くご提供する方法を検討して参ります。皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

本システムの活用により、アクティブ・ラーニングの視点を生かした「主体的・対話的で深い学び」の授業改善が深まりますよう、お祈り申し上げます。

早稲田大学教職大学院
教授 田中博之